**職　務　経　歴　書**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　20xx年xx月xx日現在

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名　○○ ○○

**■職務要約**

○年にわたり、一貫して経理部門に所属し、決算全般から監査対応まで幅広い経理業務を手がけてまいりました。メンバーマネジメントおよび子会社の経理責任者も経験しております。常に業務改善を意識して取り組んでおり、システムの導入や刷新のプロジェクトもリードしてまいりました。これらの経験を活かし、現在は経営企画部門において中計作成・予実管理等の管理業務の責任者をおり、計数計画を実績化するべく、全社的な打ち手を考えています。これらの経験から、いわゆる会社の業績を「作る」、経営者に非常に近い仕事を行うことができます。

**■職務経歴**

□20xx年xx月～現在　○○○○株式会社

◆事業内容：器具の設計、製造、販売

◆資本金：○○○百万円　売上高：○○○百万円（20xx年）従業員数：○○○名　　東証○○上場

|  |  |
| --- | --- |
| 期間 | 業務内容 |
| 現在　～20xx年xx月 | 経理部　部長　メンバー○名 |
| ■本社経理部長として従事。【担当業務】・決算全般（単体・税務・連結、IFRS）・決算短信・有価証券報告書作成、作成・企業結合関係(○○、○○統合関係)・○○○・○○○・○○○◎当時 最年少のグループ責任者を拝命し、マネジメントを担当 |
| ※補足があれば記載 |
| 20xx年xx月　～20xx年xx月 | ○本部○課　メンバー○名　 |
| ■○○（エリア）子会社の経理責任者として従事。【担当業務】・経理業務全般を管理・移転価格税制対応のための文書化実施・基幹システムのSAP への移行【実績】・日本向け輸出製品の拡大により初めての黒字化達成、基幹システムのアップデート、移転価格対応・CFO として部下○名のマネジメント |
| ※補足があれば記載 |

□20xx年xx月～20xx年xx月　△△△株式会社

◆事業内容：機械の設計、製造、販売

◆資本金：○○○百万円　売上高：○○○百万円（20xx年）従業員数：○○○名　　東証○○上場

|  |  |
| --- | --- |
| 期間 | 業務内容 |
| 20xx年xx月　～20xx年xx月 | ○○（エリア）現地法人 総経理　メンバー○名 |
| ■現地法人の総経理業務（経営管理、短期、中期目標の設定、戦略立案）【担当業務】・経理部門強化（部門別損益管理、予実管理、決算早期化、進行基準の導入）・人事制度導入（各種規定・評価制度等）・現地人事部門強化（採用及び教育の強化）、・調達部門の強化（納期遵守率アップ・変動費の削減等）・税務関係対応（移転価格等）各種システム導入による業務効率化及び情報共有の強化・人事管理システム導入（勤怠管理、給与計算、人員管理、所得税計算）・その他システム導入（旅費精算システム、社内イントラ、G-Suite、Active Directory 等） |
| ※補足があれば記載 |
| 20xx年xx月　～20xx年xx月 | ○本部○課　メンバー○名　 |
| ■経理課長として従事。【担当業務】・決算処理：決算報告書、事業報告書作成・法人税、消費税他申告書作成・連結決算の導入責任者として、国内外グループ会社○○社を立ち上げなお、立ち上げ後は連結決算担当として仕訳～財務諸表、決算報告書の作成に従事・会計士監査対応・税務調査対応・○○（エリア）の海外会社担当（海外子会社の課題発見・改善実行）・○○（エリア）現地法人に小規模ERP パッケージを導入・○○（エリア）の販売会社・製造会社・ソフト開発会社の経営管理及び経理業務サポート・不採算子会社の経営改善や閉鎖業務（○○（エリア）子会社の閉鎖手続き対応） |
| ※補足があれば記載 |

**■活かせる経験・知識・技術**

【例文：経理系】

・月次決算/年次決算/税務申告/連結決算業務といった経理業務全般の幅広い経験

・会計数値から事業課題を抽出する財務分析力

【例文：企画・プロマネ系】

・仮説検証から事業計画、実行立案、推進といった事業企画業務全般

・プロジェクトマネジメント、海外子会社の支援、経営管理業務

・ERP や海外システムの導入業務経験による業務改善の経験

・メンバーおよび業務マネジメント

【例文：グローバル系】

・海外駐在経験を通したグローバルなコミュニケーション能力

・国際会計基準（USGAAP、IFRS)への対応

**■自己PR**

あまり、限定せずに簡潔に！

数字の処理にとどまらず、経営戦略の実現を支えることを強く意識して取り組んでまいりました。子会社の管理においては

コスト改善策に力を入れ、黒字化を実現しております。会社の根幹を守るため、ミスや不正を未然に防ぐ仕組みも整え、

全部署の責任者とコミュニケーションをとることで意識改革を実行してまいりました。今後も経営の安定・改善に貢献したいと

考えています。

以上